

恐竜調査隊が行く

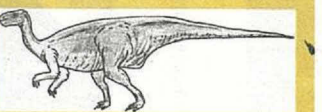
岡山理科大学教授・石垣忍



この化石にもうすぐ名前が付くよ

まめ ち しき
豆 知 識

バクトロサウルス 白亜紀の後期の初めごろ(約9000万年前)のモンゴルにいた植物食の恐竜。体の長さは3~5メートル。二足歩行だったのか四足歩行だったのかは学者の間でも議論がありますが、私は二足歩行と考えています。



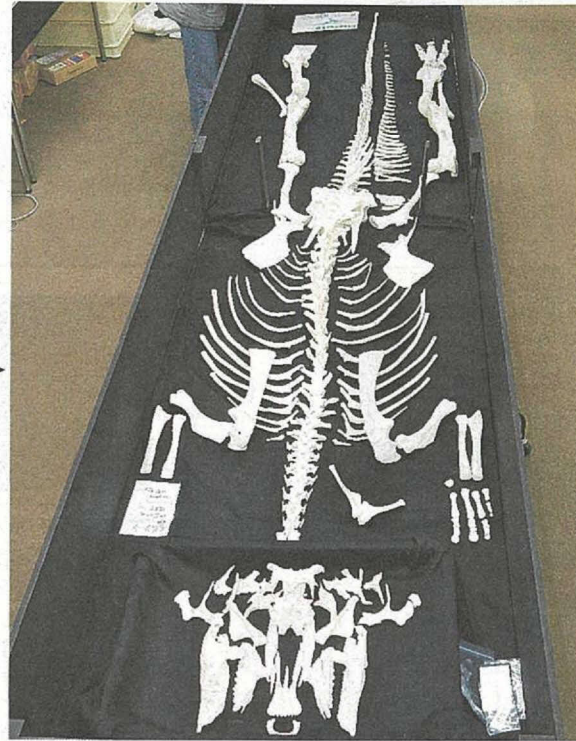
「〇〇〇〇〇〇」

林原・モンゴル共同調査隊が1995年に発見した恐竜の全身骨格に付けられる予定の名前です。「この名前を付けるよ」という論文がもうすぐ出るのですが、今のところは〇〇〇〇〇〇〇〇です。

その化石は本当にみんなが息をのむほどの完全なものでした。何と全身骨格の98%が出てきたのです。「世界でもまれに見る保存の良さだ」。みんなそう確信しました。特徴は東

ゴビ砂漠で過去に見られていたバクトロサウルスに似ていたので、とりあえずその仲間ということにしましたが、これはきっと新種になるとみんな思っていました。それから20年余り。モンゴルと日本の研究者が協力して研究が進み、いよいよ名前が付くというわけです。

何といってもすごいのは頭の骨です。頭の骨といえば「どくろマーク」を思い出しますね。実はあの骨は23個の小さな骨が複雑

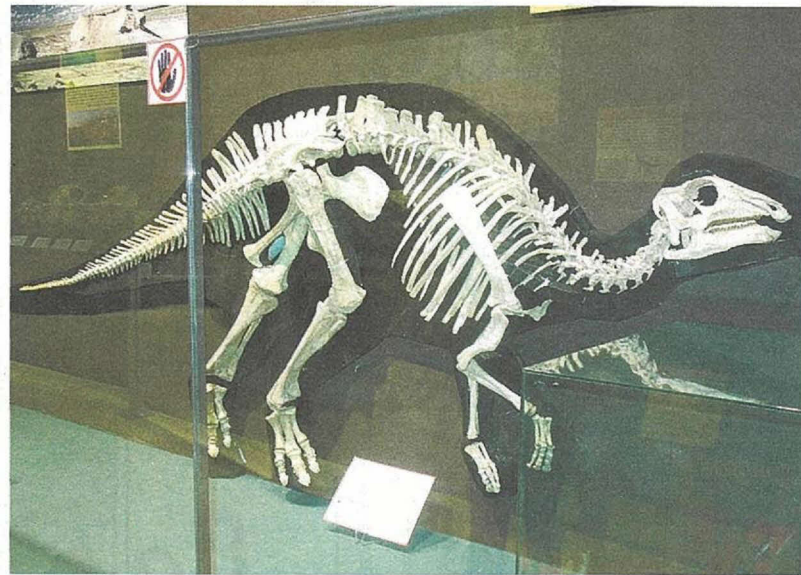


展示準備中の全身骨格。手前の部分が、ばらばらになった頭の骨を並べた部分

保存の良さ 世界でもまれ

に組み合わさってできています。この恐竜化石の頭はそのような小さな骨がばらばらに、でも、どれも失われることなく出てきたのでした。

その化石の実は現在モンゴルにあります。丁寧に型どりの精密なレプリカが岡山理科大学に展示されます。どうぞ、その「ばらばらの頭の骨」を見に来てください。



組み上げた全身骨格。モンゴルのウランバートルではレプリカ骨格が組み上げられています

この標本をはじめ、骨格16体や発掘の様子、標本庫や化石処理室など実際の研究現場をそのまま展示した「恐竜博物館」が24日、岡山理科大学の中に開館します。記念シンポジウムもありますのでぜひお越しください。詳しくは「恐竜博物館」で検索してください。